

当院では誤嚥性肺炎患者の栄養状態ならびに摂取栄養量が転帰に及ぼす影響について調査します。これは、栄養障害と摂食嚥下障害は、誤嚥性肺炎の発症及び重症化の危険因子であることが言われていますが、摂食嚥下障害患者における摂食状況レベル（以下、FILS）ごとの栄養状態や摂取栄養量に伴う予後に関する影響は不明なためです。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。なお、協力いただかない場合でも患者様に不利益は一切ございません。

研究課題名	誤嚥性肺炎患者におけるFILSごとの栄養状態と摂取栄養量が転帰に及ぼす影響
当院の研究責任者	医療技術部 栄養課 管理栄養士重政 光彰
当院の研究分担者	医局 第一内科部長 服部 宜裕 看護部 師長 竹岡 雅美 医療技術部 作業療法技術課 言語聴覚療法技術係長 辻村 萌
研究指導者	県立広島大学 総合学術研究科 人間文化学専攻 教授 栢下 淳
本研究の目的	誤嚥性肺炎患者の栄養状態ならびに摂取栄養量と転帰との関連を調査
調査データ該当期間	2020年12月26日～2024年7月6日
研究の方法 (使用する試料等)	<p>1) 研究対象者 2020年12月26日～2024年7月6日の間に庄原赤十字病院に誤嚥性肺炎（疑い含む）治療目的で入院した患者</p> <p>2) 研究期間 倫理委員会承認日～2026年3月31日</p> <p>3) 研究方法 誤嚥性肺炎入院患者の摂食状況や摂取栄養量ならびに栄養状態が転帰について及ぼす影響について診療情報を用いて調査研究を実施します。</p> <p>4) 使用する情報の種類 入院時；性別、年齢、身長、体重、BMI、浮腫の有無、 採血データ（Alb、Hb、TLC、CRP、WBC）、下腿周囲長、食形態、入院前FILS、 入院前居住形態及び要介護度、A-Drop 7日目；エネルギー充足率(%EI)、三大栄養素摂取量・比、パーセルインデックス(BI)、FILS 退院時；体重、BMI、体重変化率、%EI及び三大栄養素摂取量・比、 FILS、BI、居宅変更の有無、言語聴覚士によるリハビリ介入の有無・介入期間、嚥下内視鏡検査/嚥下造影検査の有無、経口開始までの日数、抗菌薬投与期間、入院期間、チャールソン併存疾患指数</p>

個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さま個人を直接特定できる個人情報、または患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
情報の保存	この研究に使用した情報は、研究の中止または論文の発表から5年間、庄原赤十字病院栄養課内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。
本研究の資金源	この研究において、資金の受け入れ及び使用はありません。
お問い合わせ先	庄原赤十字病院 栄養課 管理栄養士 氏名 重政 光彰 TEL 0824-72-3111 FAX 0824-72-3285 E-mail : eiyoka@shobara.jrc.or.jp